（１９） パ セ リ

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除 防除時期	RACコード	薬剤
1 立枯病 *Fusarium solani*	1.連作を避ける。 2.高うねにし、排水を良好にする。 3.病株は早期に処分する。 4.太陽熱消毒をする。 **〈薬剤使用の特記事項〉** ●播種前、定植前 1.消毒方法は、Ⅲ－14. 土壌病害虫の防除の項参照。	土壌消毒	－ － －	クロールピクリン クロルピクリン錠剤 ドロクロール
		発生初期	1	ベンレート水和剤
		発生初期ただし２～３葉期まで	M4	オーソサイド水和剤８０
2 軟腐病 *Pectobacterium carotovorum*	1.連作を避ける。 2.高うねにし、排水を良好にする。 3.病株は早期に処分する。 4.太陽熱消毒をする。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.キノンドー粒剤は露地栽培のみの登録なので、施設栽培では使用しない。	播種前	M1	キノンドー粒剤
		発生初期	31 M1 NC･M1	スターナ水和剤 Ｚボルドー (混)ジーファイン水和剤
3 うどんこ病 *Erysiphe heraclei*	1.摘除した病葉及び収穫後の植物残さは圃場に放置せず、早めに処分する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.ストロビーフロアブルは収穫45日前までの使用とする。 2.フルピカフロアブルは収穫45日前までの使用とする。また、１回の使用とする。 3.アフェットフロアブルは短期間の連続散布はしない。	発生初期	3 7 9 11 11 M2 NC NC･M1 － － －	スコア顆粒水和剤 アフェットフロアブル フルピカフロアブル アミスター２０フロアブル ストロビーフロアブル イオウフロアブル カリグリーン (混)ジーファイン水和剤 サンクリスタル乳剤 粘着くん液剤 エコピタ液剤
4 菌核病 *Sclerotinia sclerotiorum*	1.多湿にしない。 2.被害株を処分する。 3.連作を避ける。 4.ハウス栽培に発病が多い。			
5 炭疽病 *Colletotrichum nymphaeae*	1.多湿にしない。 2.被害株、病茎葉を早期除去する。 3.降雨の多い時に発生しやすい。			
6 疫病 *Phytophthora nicotianae*	1.連作を避ける。 2.高うねにし、排水を良好にする。 3.病株は早期に処分する。 4.太陽熱消毒をする。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.消毒方法はⅢ－14. 土壌病害虫の防除の項参照。	定植前	－ －	ガスタード微粒剤 バスアミド微粒剤
		発生初期(株元散布)	11･4	(混)ユニフォーム粒剤
7 アブラムシ類	1.飛び込み軽減のため、ハウス開口部を防虫ネット（１㎜目合以下）で被覆する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.アドマイヤー１粒剤は薬害回避のため、使用量、使用方法を厳守する。 2.テルスター水和剤は収穫21日前までの使用とする。また、１回の使用とする。 3.アドマイヤーフロアブルは収穫30日前までの使用とする。また、１回の使用とする。 4.モスピラン顆粒水溶剤は収穫21日前までの使用とする。 5.粘着くん液剤、エコピタ液剤、オレート液剤、サンクリスタル乳剤、サフオイル乳剤は虫体に直接かかるように散布する。	播種時または定植時	4A	アドマイヤー１粒剤
		生育期	4A	アドマイヤー１粒剤
		発生初期	3A 4A 4A 4A 29 － － － － －	テルスター水和剤 アドマイヤーフロアブル モスピラン顆粒水溶剤 ダントツ水溶剤 ウララＤＦ 粘着くん液剤 エコピタ液剤 オレート液剤 サンクリスタル乳剤 サフオイル乳剤

パセリ

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除 防除時期	RACコード	薬剤
8 ハダニ類	1.圃場周辺の雑草などの寄主植物を除去する。 2.ハウス栽培の場合にはハウス開口部にビニールによる折り返し（ダニ返し）をする。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.粘着くん液剤、エコピタ液剤、サンクリスタル乳剤、サフオイル乳剤は虫体に直接かかるように散布する。	発生初期	6 － － － －	コロマイト乳剤 粘着くん液剤 エコピタ液剤 サンクリスタル乳剤 サフオイル乳剤
9 ハスモンヨトウ	1.卵塊、幼虫集団を見つけたら摘除する。 2.飛び込み軽減のため、防虫ネット（4㎜目合以下）で被覆する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.老齢幼虫には薬剤の効果が劣る。	育苗期後半～定植当日	28･4A	（混）ジュリボフロアブル
		発生初期（若齢幼虫期）	6 11A 11A 11A 15 18 28	アファーム乳剤 トアロー水和剤CT ゼンターリ顆粒水和剤 デルフィン顆粒水和剤 カスケード乳剤 マトリックフロアブル プレバソンフロアブル5
10 ヨトウムシ	1.卵塊、幼虫集団を見つけたら摘除する。 2.飛び込み軽減のため、防虫ネット（4㎜目合以下）で被覆する。	発生初期（若齢幼虫期）	5 11A 28	スピノエース顆粒水和剤 ゼンターリ顆粒水和剤 プレバソンフロアブル5
11 キアゲハ	1.飛び込み軽減のため、防虫ネット（4㎜目合以下）で被覆する。	発生初期	11A	ゼンターリ顆粒水和剤
12 ネキリムシ類	1.飛び込み軽減のため、防虫ネット（4㎜目合以下）で被覆する。 2.圃場や圃場周辺の除草を行う。 3.被害株周辺土中の幼虫が潜む穴を見つけ、捕殺する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.ガードベイトAは作物残留しやすいので注意する。	播種時(直播栽培) 定植時(移植栽培)	3A	フォース粒剤
		定植時	3A	ガードベイトA
13 ネコブセンチュウ	1.被害株の間引きを行う。 2.輪作を行う。	播種前 または定植前	- -	石灰窒素50防散 粒状石灰窒素
		定植前	1B	ネマトリンエース粒剤

農薬の使用方法や注意事項はラベルで確認する